

スポーツ東京案内「指導者派遣事業」～ある保育園にて～

令和2年12月吉日、都内のある公立保育園にて指導者派遣を行いました。その保育園は初めて本事業を利用されたのですが、終わってみると、子どもたちは大喜び、保育園の先生方に喜んでいただくことができました。今回の指導内容は「アクティブチャイルドプログラム(※)」というもので、参加された子どもたちは来年小学校に進学する園児、約20名でした。指導者は公認スポーツ指導者資格のほか、保育士の資格も持ち、都内で学童保育の仕事をするかたわら、硬式テニスのスポーツ少年団でリーダー活動に取り組んでいる方です。今回の指導内容は大きく分けて3つ。以下、詳しく紹介していきます。

一つめ。体を使ったジャンケン。体全体を使って指導者と子どもたちでジャンケンをしました。その際、子どもたち自身がポーズを考え、決めるようにしました。子どもたちの主体性を引き出すことで、やる気は倍増。子どもたちの心を掴み、あっという間に全員が指導者に集中していました。また、「指導者に勝ったら一歩前進、負けたら進めない」といったゲーム性を取り入れることで、子どもたちのやる気はさらにアップ。優勝した園児が指導者の代わりにジャンケンしたりするなど、園児自身にも役割を担ってもらいました。さらには「負けるが勝ちジャンケン」と称して、指導者にあえて負けるように体を動かすなど、“頭”を使う要素も取り入れ、思うようにできない子どもたちはますます夢中になっていました。

二つ目は新聞紙を使ったプログラム。風に揺れる新聞紙を真似して体をゆらゆら動かしました。また、指導者が「マジック」と言いながら、A4サイズに切った新聞紙をお腹にくっつけて走りまわりました。空気抵抗で落下しない新聞紙に子供たちはびっくり仰天。園児一人ひとりの「自分もやってみたい!」という好奇心をみごとに引き出しました。そのあとは、園児を2グループに分けたリレー競争です。園児は全力で体を動かしているはずなのに、疲れた様子もなく、熱気はますます高まるばかり。子供たちだけの作戦タイムを設けるなど、自己決定を促すことで、子どもたちのやる気も最高潮に達していました。

三つ目はロープを使ったプログラム。もう何をやっても子どもたちは大興奮。再び、園児を2グループに分けて、ロープを所定の場所に置いたり拾ったりのリレーです。これも、作戦タイムを設けて園児の主体性を尊重することで、子どもたちのやる気と熱意をさらに引き出しました。

全体を通して、“一方的に指導者が園児に教える”のではなく、“指導者が園児たちとコミュニケーションをとりながら一緒に体を動かす”、そんな雰囲気、自然と一体感が生まれていました。誰ひとり気をそらせることなく、全員が熱中し、気がついたら、みんな全力で体を動かしていました。また、子どもたちに役割を与えたり、自分たちで考え、決めさせたりするなど、体だけでなく、子どもたちの“心”と“頭”に働きかける、そんな要素も盛り込むことで、やる気や好奇心を刺激し、子どもたちの顔は生き生きとした笑顔に満ち溢れていました。子どもたちにとっては、良い意味での「非日常」と「体を動かす楽しさ」を体感してもらえたと思います。今回実施した内容は、指導者がいなくても簡単にできるものばかりなので、普段の保育園の運営に活かしてもらえたら、指導者を派遣した我々としては、こんなに嬉しいことはありません。

※子どもたちが楽しみながら積極的にからだを動かせる運動プログラムで、(公財)日本スポーツ協会が普及を進めているもの。詳しくはホームページをご覧ください。<https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/acp/>